

# 史跡 黒姫山古墳

黒姫山古墳は、堺市美原区にある前方後円墳で、百舌鳥古墳群と古市古墳群の中間に位置します。周囲には少なくとも6基の中小規模の古墳があったと考えられていますが、現在は残っていません。

後円部の埋葬施設は盗掘により失われていますが、内部に刳抜式石棺を納めた竪穴式石室があったと推定されています。昭和22年(1947)から発掘調査が実施され、埴輪を含む様々な資料が出土しました。また前方部から見つかった石室からは、全国最多となる24領の甲冑をはじめ、刀・剣・鏃などといった大量の鉄製武器・武具が出土しており、築造当時の武装や鉄製品の製作技術を知る貴重な資料となっています。

出土品や発掘調査の結果から、黒姫山古墳は5世紀中頃に築かれたと推定されます。また被葬者は古墳時代中期の「倭の五王」の時代に活躍した人物であり、この地域で勢力を誇った丹比氏の首長と考えられています。

現在、古墳の周辺は広場として整備されており、復元された前方部竪穴式石室や埴輪列等を見学できます。また甲冑や埴輪などの出土品の一部は、堺市立みはら歴史博物館で展示されています。

## 史跡 黒姫山古墳の概要

- 墳形：前方後円墳、二段築成、北側くびれ部に造り出し
- 規模：墳丘長114m

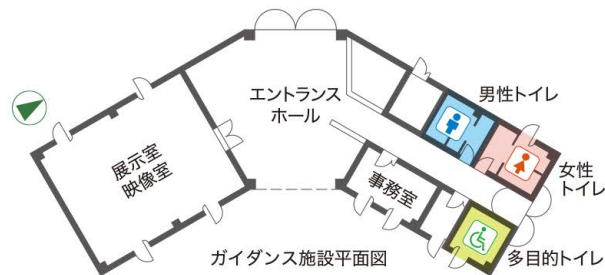
後円部径64m、後円部高11m

前方部幅65m、前方部高11.6m

- 古墳築造時期：5世紀中頃
- 史跡指定年月：昭和32年(1957)10月24日、国の史跡に指定／昭和53年(1978)5月6日、周庭帯及びどん山古墳跡の範囲を追加指定
- 整備実施期間：平成元年度(1989)～平成4年度(1992)
- 出土した甲冑24領は『黒姫山古墳出土甲冑類』として、平成20年(2008)7月17日、堺市指定有形文化財に指定

# ガイダンス施設

- 開館時間：午前10時～午後4時 ■ 入館料：無料
- 休館日：月曜日(祝日・休日の場合を除く)  
祝日の翌日(土・日・祝日を除く)  
年末年始(12月28日～翌年1月4日)
- 展示室・映像室では、出土した埴輪の模型や黒姫山古墳築造の様子を解説した映像を視聴できます。来場時に映像の視聴を希望される方は、当施設事務室に申し出てください。



- 近鉄南大阪線「河内松原駅」▶ 近鉄バス「余部」行、「大保」バス停から南西へ450m
  - 南海高野線「初芝駅」▶ 南海バス「美原区役所前」行、「下黒山西」バス停から東へ200m
  - 南海高野線「北野田駅」▶ 南海または近鉄バス「多治井北」行、「黒姫山古墳前」バス停から南西へ150m
- ※ 堺市立史跡黒姫山古墳歴史の広場には駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。お車で越しの場合は、堺市立みはら歴史博物館の駐車場をご利用ください。

史跡黒姫山古墳 令和8年(2026)3月1日発行  
堺市 文化観光局 歴史遺産活用部 世界遺産課  
〒590-0078 堺市堺区南瓦町3-1  
Tel.072-228-7014 Fax.072-228-7251

デザイン：山本書院グラフィックス



堺市立史跡黒姫山古墳  
歴史の広場ページ



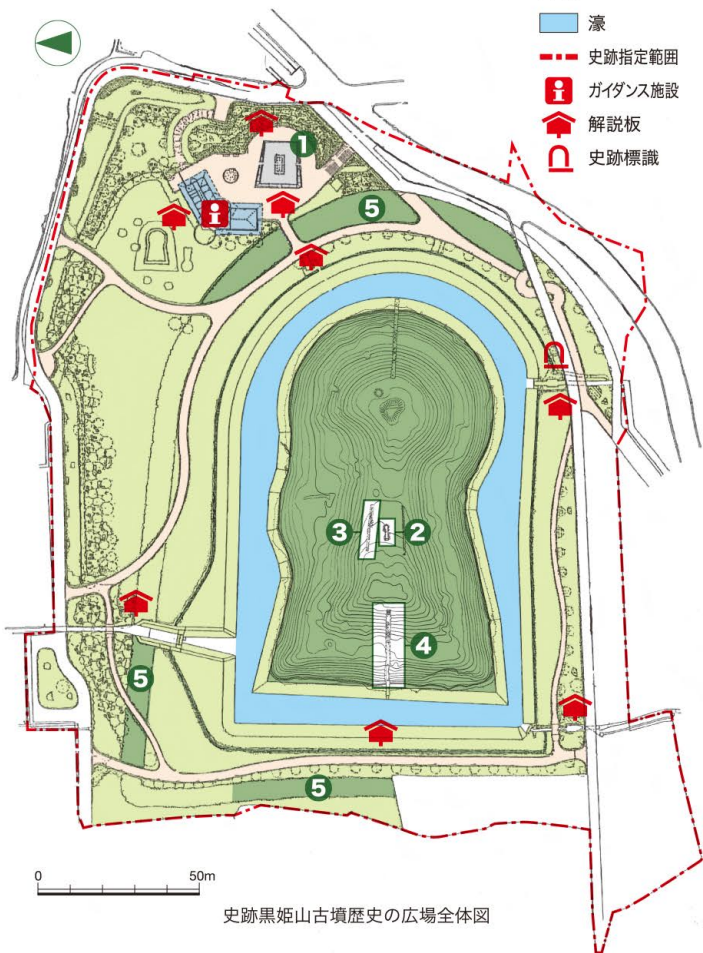
# 堺市立 史跡黒姫山古墳 歴史の広場



復元された前方部竪穴式石室・埴輪列とガイダンス施設

### 凡例

- 濠
- - - 史跡指定範囲
- i ガイダンス施設
- 🏠 解説板
- 📍 史跡標識



史跡黒姫山古墳歴史の広場全体図

## 前方部の竪穴式石室

石室は通常、死者を納めた棺を安置するため、後円部に造られますが、黒姫山古墳では前方部にも設けられています。前方部墳頂付近に造られた竪穴式石室は、石室内に棺はなく、甲冑をはじめとする鉄製の武器や武具がぎっしりと納められていたことから、副葬品を埋納するために造られたと考えられます。復元した竪穴式石室の中には出土品の模型が入っており、築造当時の石室内を再現しています。



復元された前方部竪穴式石室



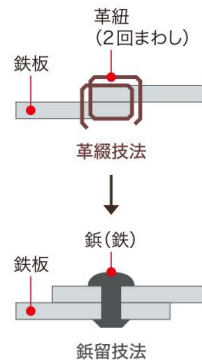
前方部竪穴式石室の検出状況

## 甲冑

古墳時代前期から中期の甲冑は、頭を守る冑と、胴体部分を守る短甲が主に用いられました。これらは加工した鉄板を革紐や鉄で綴じ合わせて製作され、革綴に比べて結合力の強い鉄留技法が5世紀初め頃に朝鮮半島から伝わります。黒姫山古墳から出土した甲冑は全て鉄留技法が用いられ、大量の冑や短甲、付属具がセットで充実している点が最大の特徴です。



前方部竪穴式石室から出土した甲冑類



甲冑の鉄板結合技法

## 埴輪

黒姫山古墳からは円筒埴輪と形象埴輪(盾・蓋・鞆・甲冑・動物・家など)が出土しています。墳丘上段と下段のテラス面からは埴輪列が確認されており、その他も含めると築造当時には総数約1,100本もの円筒埴輪が並んでいたと推定しています。現在は、前方部墳丘上に一部埴輪列と冑石を復元しています。



前方部上段北側の円筒埴輪列の検出状況



円筒埴輪

鞆形埴輪



復元された前方部埴輪列と冑石

## 周庭帯

墳丘の周りには濠が巡り、その外側を帯状の平坦地が取り囲んでいました。これは周庭帯と呼ばれ、古墳をより立派に見せるなどの目的で造られたと考えられます。周庭帯の位置には、ツツジを植えて表現しています。



周庭帯の位置 (黄色破線は周庭帯跡、黄色塗りがツツジ植栽部)